

とやま虹の会 公式ホームページ → <https://www.nijinokai.net/>

当法人は、2022年8月に法人設立30周年を迎え、記念誌を作成しました。今回はそのダイジェスト版をお届けいたします。



理事長 池田 克己

私たちは、高齢者の人権と尊厳を守り、住み慣れた地域で安心して暮らせるようにと計画的に総合的な施設体系づくりと福祉のネットワークづくりに取り組んできました。レインボーに次ぐ大型事業として、1997年に特別養護老人ホームしらいわ苑を開設しました。最期までその人らしく暮らしを支える介護の実践を職員といっしょに創ってきました。その後、2015年には個室型のしらいわ苑こもれびを増築しました。

また、在宅生活を支えるサービスとしてホームヘルパー事業や訪問看護、アットホームで安心できる小規模型事業所として、2003年に市江やすらぎの郷、2004年には、中村町にぬくもりの郷を開設しました。2000年に介護保険制度がスタートしましたが、居宅支援事業所や富山市より在宅介護支援センターの委託を受けて、地域での相談活動や在宅支援活動に取り組んできました。

2006年には、要介護状態にならないように介護予防の取り組みが重視され、水橋生活サポートセンターかけはしを開設しました。ここでは介護予防を中心としたデイサービスかけはしと高齢者の相談機能である地域包括支援センター(当時)や市営住宅のLSA(生活援助員事業)の業務委託を受け、複合的機能を持つ施設として地域での役割を果たしてきました。

2019年には、ショッピングセンターミュージズ内に在宅福祉センター虹の橋を開設し、総合事業のデイサービスと介護相談所、月1回催事場をお借りし

て、どなたでも参加いただける体操教室や健康講話などのイベントを開催しました。

こうした取り組みは、皆さんの福祉への期待と熱意が私たちのこころに刻み込まれ、幾多の困難を乗り越えてここまで来ることができたことを感謝しています。

さて、今日介護をめぐる情勢は非常に厳しいものがあります。一つは介護の人材不足です。介護は高齢者の尊厳をまもるやりがいのある仕事ではありますが、他産業と比較して待遇面が良くないことなど、若い世代で介護の仕事につく方が少なくなっています。人材確保の困難からやむなく事業を中止したものもあります。現場から福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を発信して、若い世代が希望の持てる福祉を実践していきたいと思います。

もう一つは、コロナ感染です。世界的なパンデミックによって、これまでの日常生活や介護のあり方が大きく変わりました。人との接触がさけられない介護の現場では多くの困難が発生しました。私たちは感染対策を徹底し、引き続き必要とされる介護サービスが提供できるように取り組んでまいります。

住み慣れた地域で安心して暮らせるように、皆さんといっしょに福祉のネットワークを広げ、「福祉のまちづくり」に役職員一同力をあわせて取り組んでまいります。これからも皆さまのご協力・ご支援を心よりお願い申し上げます。

「老後も安心して暮らしたい」 地域の声に応えた、とやま虹の会の設立

1992年8月、社会福祉法人とやま虹の会が設立され、93年7月に老人保健施設レインボーが開設。そこには「老後を地域で安心して暮らしたい」という、富山市水橋地区の皆さんの切なる願いがありました。法人設立の背景と介護保険時代に入った10年を振り返ります。

1992 → 2001



1993年7月/レインボー完成。富山市で初めての社会福祉法人による「老人保健施設」の誕生でした。定員100名。1994年7月に在宅介護支援センター、同年10月に老人居宅介護（ヘルパー）事業を開始。

高齢化率2ケタ時代 法人設立

社会福祉法人とやま虹の会が設立された1992年は、老人訪問看護制度が創設された年です。国を挙げてゴールドプランの推進に取り組んでいる時期でした。

80年、日本の高齢化率は9.1%。寝たきり老人が社会的問題化するなど、介護の現場である家庭や病院・施設は、ひっ迫状態にありました。高齢化率がついに12.0%に達した90年、福祉8法改正で福祉サービスの市町村への一元化がスタート。消費税が5%に引き上げられた97年、介護保険法が成立しました。

こうした社会的な動きの中、自分たちのための老人保健施設が必要—そんな思いが、地域に沸き起こり、やがて、とやま虹の会設立という運動へとつながりました。法人設立に必要な資金は1億円。その半分以上を富山医療生活協同組合の仲間の募金でかなえ、わずか6か月で目標額を達成しました。



1992年/建設中の老人保健施設レインボー。多くの方々の善意が水橋の地に、形となっていきました。

『高齢者の人権を尊重し、ひとりひとりの豊かな生活を築く』『「福祉のまちづくり」を地域ぐるみで』『地域の方々のさまざまなご支援によって設立・運営』。法人理念にあるこれらは、すべての役職員の原点として熱く息づいています。

富山市初、社会福祉法人 による老人保健施設 レインボー

法人設立から約1年後、1993年7



1992年/とやま虹の会創設に力を注ぎ、レインボー建設時に中心となつてともに汗をかいたメンバーたち。

月、富山市水橋新堀1番地に老人保健施設レインボーが開設。施設建設中は地域住民の方々にも積極的かつ熱心に参画いただき、「私たちによる、私たちの施設」を実践しました。定員100名の規模を誇るレインボーですが、職員数も限られており、また高齢者介護の経験が浅い者がほとんどでした。利用者の皆さんに教わりながらのスタートでしたが、3か月後には満床となりました。

1992→2001

1997年4月20日/「最期までその人らしく暮らしを支える」コンセプトに、特別養護老人ホームしらいわ苑が完成しました。同年6月、訪問看護ステーションにじ開設。(写真は2022年5月現在のしらいわ苑)



特別養護老人ホーム しらいわ苑

1994年7月に在宅介護支援センターを開設し、10月に老人居宅介護(ヘルパー)事業を開始。97年、特別養護老人ホームしらいわ苑を、また訪問看護ステーションにじを開設。

しらいわ苑の建設資金には1700人を超える方からの寄付があり、感謝の気持ちを形にしようと、施設設備に工夫を凝らしました。周囲に広がるのどかな田園地帯にマッチした外観、ゆったりとした空間を確保して快適さ、過ごしやすさを重視しました。

土に親しむリハビリ庭園や地域交流スペースの設置のほか、陶器の食器を導入したり、多床室の仕切りを障子にしたりと、アイデアを練り上げました。また、入居される方とご家族との関わりを大切にしたいと、いち早く家族会を作ったのも新たな取り組みでした。

介護保険時代のはじまり

1999年、しらいわ苑を増築し、同年10月にしらいわ苑ホームヘルパーセンターを開設。介護保険法が施行された2000年、日本の高齢化率は17.3%でした。

在宅から施設をつなぐ、複合的なサービスの提供が求められ、同年に生きがい対応型デイサービス事業梅の湯元気塾(2011年～「サロン梅の湯」に改称)を、また居宅介護支援事業所水橋介護保険相談所を開設しました。



1996年/建設中のしらいわ苑。1700人超から寄付金が寄せられました。



1996年、民主的運営をポリシーに、地域の代表にもしらいわ苑の構想・計画段階から参加していただきました。

2002→2011

ひとり一人に最適なサービスを 施設から地域に出向くケアの始まり

高齢化と核家族化、医療費の増大化を背景に生まれた介護保険。介護は「措置」から「サービス」の時代となりました。法人設立から10年を過ぎ、市江やすらぎの郷、中村町ぬくもりの郷といった小規模ケア施設を開設。本格的に「地域に出向くケア」に取り組み始めました。



2003年8月/小規模多機能ケア施設としてオープン。小規模・少人数の良さを生かし、畑とともに汗を流したり、収穫した野菜を昼食にいただいたりできました。



職員一丸で挑んだ介護保険黎明期

介護保険制度の開始によって、介護サービスは利用者・家族が選ぶものへと大きく転換しました。介護は事業所とサービスを「選ぶもの」となり、法人および施設に問い合わせが殺到、慣れない事務手続きに職員は忙殺されました。また、制度導入の2000年第1期、老人居宅生活支援事業に認知症対応型老人共同生活援助事業（グループホーム）や小規模多機能型居宅介護事業が追加されました。

2003年4月、最初の保険料の見直しと介護報酬の改定を実施。制度運営のワンサイクル終了を機に、厚労省老健局のもと、高齢者介護の課題と高齢者を支える社会づくりについて調査会からある提言がなされました。そのなかで焦点となったのが、団塊の世代の多くが高齢者となる2015年でした。調査会から

は、より変化、多様化する高齢者像に対応できる仕組みづくりを見据えた長期的な取り組みが必要であると報告されたのです。来るべき超高齢化社会が抱える課題の大きさ、複雑さを予測した警鐘でした。また、現場では在宅サービスの利用者が増える一方、特別養護老人ホームへの入所希望者が急増しており、介護保険の「在宅重視」という目的から外れることが危惧されました

水橋生活サポートセンター かけはし開設

2005年、介護保険法改正（06年施行）によって予防介護も含めた地域密着型ケアが進められることになりました。これを受けて06年4月、介護予防・重度化防止を目的にしたデイサービス事業と市営住宅中村団地にお住まいの高齢者や障害者の見守り機能（LSA）を備えた水橋生活サポートセンターかけはしを開



2004年10月/小規模ケア施設としてオープン。古いタンスなどの設えでどこか懐かしい雰囲気があり、たくさんのイベントの舞台となるなどして利用者さんを楽しませました。

設。地域包括支援センターも事業を開始して、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、サポート体制を強化しました。

その後、11年の介護法改正（12年施行）では介護予防・日常生活支援総合事業が導入。生きがい対応型デイサービス事業梅の湯元気塾は「サロン梅の湯」と改称し、誰もが親しめる交流拠点として幅広く活動していくことになりました。

2012→2022

空にかかる大きな虹のように ケアサービスの充実化と多様化



2014年10月8日、リハビリ庭園にて起工式が執り行われ多くの来賓の方々にご出席いただきました。こもれびはしらいわ苑とレインボーの間に建設されました。



2014年10月20日からこもれび建設工事が本格的に開始されました。庭園や既存建築物を撤去・整備し、その後、耐震性を高めるための杭打ちが行われました。



2階からの眺望、広々とした中庭



全景（夜景）



緑あふれる中庭を眺めながら食事タイム

ユニット型特別養護老人ホームしらいわ苑こもれび

介護保険法は3年ごとの改正があり、14年には予防給付が地域支援事業へ移行。特別養護老人ホームの新規入所者が原則要介護3以上とされ、所得に応じて自己負担2割（18年3割）の導入等が行われました。法改正によって制度そのものが複雑化・厳格化する一面もあり、地域の高齢者とその家族にとって、気軽に相談できる場所や

高度で質の高い介護サービスを求める声が高まっていました。

特別養護老人ホームしらいわ苑こもれびが80床で開設したのは、15年8月。10×8ユニットの個別ケアを目的とした施設です。ユニットには「あさひ」「そよ風」「しずく」といった親しみやすいネーミングがされ、入居者が自ら専用の食器を選んだり、希望に応じた余暇活



動を行ったりと、ユニット型ならではの居心地の良い環境とケアを特徴としました。



2019年1月7日、デイサービス・介護のまちかど相談所・ヘルパーステーションの3つの機能を一つにした、在宅福祉センター虹の橋が開設。地域の皆様が利用しやすいショッピングセンター内にあり、常設展示場にはさまざまな作品が飾られています。写真は開所式の様子です。

水橋地区内で、さらに広がる拠点

2019年1月、ショッピングセンター・ミュージズ内に在宅福祉センター虹の橋を開設。デイサービス・介護のまちかど相談所・ヘルパーステーションの3つの機能を備えていることを広くアピールするため、内見会も開催しました。

同年12月、とやま虹の会のロゴマークをリニューアル。水橋地区の2つの中学校にデザインを募集し、三成中学校の赤浜優花さんの作品が採用となりました。同時期に決定したイメージキャラクター「虹子」とともに、現在、とやま虹の会のシンボルとなっています。

コロナ禍での新しい取り組み— 動画サイト投稿とSNS発信

2019年12月、中国武漢市で新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 第一例目の感染者が報告されました。以後、数か月で世界はパンデミックとなり、日本では翌20年3月13日に特別措置法が成立、4月16日には全国を対象とした緊急事態宣言が発せられました。

とやま虹の会では感染防止対策を徹底するとともに、入所者への面会禁止、ボランティア、外部講師の研修・趣味活動、床屋等の休止、研修・会合の制限等の対応を行いました。また、21年7月、サテライトやすらぎの郷デイサービスを閉鎖しました。

コロナ禍ならではの取り組みとして、とやま虹の会では11年に開設した公式動画サイトをフル活用。各施設の諸行事はもちろん、施設のドローン撮影、VR認知症体験と次々と企画を打ち出しました。また、SNS発信にも積極的に取り組み、17年5月にLINEを、21年4月にインスタグラムを始めました。

高齢社会における、とやま虹の会の役割

わが国の高齢化率は、2020年に28.9%に達し、25年には30.0%と予測されています。

介護保険制度サービス利用者は、21年3月に509万人と、開始時の3.4倍です。さらに、現役世代の減少と核家族化によって世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯

帯が増加。高齢者が高齢者を介護する「老老介護」の割合は国の19年調査で59.7%となりました。

社会福祉法人とやま虹の会は30周年という大きな節目を迎えます。地域で必要とされるケアサービスを、真摯にきめ細かく。職員それぞれが法人設立の初志と地域の期待を胸に、大きな虹をかけていく—私たちの歩みは、これからも続いていきます。



デザインにあたって地元水橋の2つの中学校の生徒さんに依頼し、24点もの応募から赤浜優花さん(三成中学校)の作品が採用されました。「優しい気持ちを葉っぱで表現し、虹をイメージ」したロゴデザインになりました。写真は12月20日、感謝状をお渡した様子です。

資料編

※データは2021年度のもの、※()内は前年度実績

介護老人保健施設レインボー

2021年度の入所者平均数

	全体平均	入所	ショート	最高	最低
年度平均	87.17	82.62	4.54	89.50	82.33

単位：人

特別養護老人ホームしらいわ苑

(1) 平均入所者数と状況

平均入所者数	入所者数	退所者数	現員数	
			最高	最低
95.1	30.0	30.0	99.0	97.1

単位：人

(2) 2022年3月31日現在の状況

	在籍数	現員数	平均年齢	平均要介護度	平均入所期間
男性	12	12	81.35	3.6	17.4ヶ月
女性	88	87	91.36	3.8	30.4ヶ月
総合	100	99	90.47	3.8	28.8ヶ月

単位：件

水橋南地域包括支援センター

2021年度の事業実施状況

事業名	実施回数	事業名	実施回数
介護予防普及啓発事業	12	包括的・継続的マネージメント支援事業	6
地域介護予防推進事業	1	介護予防支援	571
介護予防ふれあいサークル事業	1	介護予防ケアマネージメント	329
介護予防推進リーダー事業	2		

とやま虹の会 法人年表

年 月

1992	8	社会福祉法人 とやま虹の会 設立 (初代理事長 村内市郎)
1993	7	介護老人保健施設 レインボー 開設
1994	7	在宅介護支援センター 事業開始
	10	老人居宅介護(ヘルパー) 事業開始
1997	4	特別養護老人ホーム しらいわ苑 開設
	6	訪問看護ステーション にじ 開設
1999	10	しらいわ苑 ホームヘルパーセンター 開設
2000	10	生きがい対応型デイサービス事業 梅の湯元気塾 開設
	11	居宅介護支援事業所 水橋介護保険相談所 開設
2003	6	設立10周年/式典および記念行事・構成朗読劇「水清き里 人あつき里」(水橋ふるさと会館)
	8	第2代理事長 犬島 肇
	8	小規模ケア施設 市江やすらぎの郷 開設
2004	10	小規模多機能ケア施設 中村町ぬくもりの郷 開設
2006	4	水橋生活サポートセンター かけはし 開設
		地域包括支援センター 事業開始
2007	6	設立15周年/式典および記念行事「関定子コンサート」
2010	8	第3代理事長 友梶 彰
2011	4	サロン梅の湯 開始
		活動報告交流集会～はじめの一步～開催
2012	4	生活サポートセンター かけはし 開設
2013	9	設立20周年/式典および記念行事・構成朗読劇「水清き里 人あつき里」(水橋ふるさと会館)
2015	8	特別養護老人ホーム しらいわ苑こもれび (80床) 開設
2016	8	第4代理事長 大野孝明
2017	7	特別養護老人ホーム しらいわ苑 (20床) 個室ユニット改修
	11	設立25周年/式典および記念講演&シンポジウム(しらいわ苑デイサービス)
2019	1	在宅福祉センター 虹の橋(ショッピングセンター・ミュージズ内) 開設
	6	第5代理事長 池田克己
	12	ロゴマークリニューアル
2022		設立30周年/記念事業、30周年記念誌



初代理事長
村内市郎



第2代理事長
犬島 肇



第3代理事長
友梶 彰



第4代理事長
大野孝明



第5代理事長
池田克己

地域福祉部 (2021年度)

(1) しらいわ苑デイサービスセンター

要介護度別のべ利用者数 (総合事業含む)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
合計	319	866	3,038	2,878	1,999	822	294	10,216

単位:人

(3) デイサービスかけはし 要介護度別のべ利用者数 (総合事業含む)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
合計	385	1,181	2,587	1,537	955	79	0	6,724

(5) 生活サポートセンターかけはし 要介護度別サービス計画提出件数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
合計	371	211	148	88	17	835

(2) しらいわ苑ホームヘルパーセンター

要介護度別のべ利用者数 (総合事業含む)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
合計	210	122	1,270	1,150	754	529	400	4,435

(4) 水橋介護保険相談所 要介護度別サービス計画提出件数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
合計	657	849	300	176	50	2,032

単位:件

Be サポ！ デイサービスかけはし

サッカーJ3に所属するカターレ富山が企画した「Beサポ！」プロジェクトに賛同し、デイサービスかけはしのサッカー大好き女子が集まり、素敵なプラカードを作っていました。



こちらのプラカードは9/10(土)のホームゲーム宮崎戦で「人生の先輩からのエール企画」として横断幕に掲出されました。またスタジアム内で動画も流れました。

後日カターレ富山の選手から、メッセージビデオが届きました。今回スタジアムへ観戦に行けませんでした。いつかスタジアムで選手と会える日を楽しみにしています。
がんばれカターレ富山！

仕事帰りにボディメンテナンス とやま虹の会

パーソナルジム N-spesさんと BaseLine整体『快樹 Kaiju』さんと project for uさんご協力のもと、福利厚生の一環で「ボディメンテナンス」を行っています。

介護職の職業病といえる「腰痛」。福祉用具で「腰痛予防」はしているのですが、それでも腰痛を抱えたまま、腰痛予防をしても効果がありません。腰痛予防も重要ですが、「腰痛をケア」することも大事です。

そこで腰痛や肩こりやストレスを抱えた職員の身体的な悩みを少しでも解消すべく、「筋膜リリース」「整体」「水素吸入」「アロマケア」「ドライヘッドマッサージ」を施術していただいています。施術を終えた職員はとても満足した様子で、「またしてもらいたい」「体が軽くなった」「リラックスできた」「痛みが軽減された」という感想が聞かれました。

リピータも多く、「施術のある日が楽しみ」といった声もあり、月4回あるボディメンテナンスは大盛況です。

施術者からは、介護職の皆さんはほかの職種と比べて、筋肉が固い印象があり、腰痛にもなりやすいので、継続的なケアは必要という見解です。

今後も職員の「腰痛ケア」と健康増進を図っていきます。



これが噂の筋膜リリース



「あんなにひどかった腰痛も軽減されました」



ご寄付

大野慶子 様 匿名 匿名 N-spes 様 サロン梅の湯 運営協議会 様
灯油 150 リットル 匿名
皆様ありがとうございました。

お問い合わせ先 法人事務局 〒939-3535 富山市水橋新堀1 TEL 076-479-2082



虹の会LINE アカウント
LINE ID
@mmz5625p



YouTube

とやま虹の会 公式チャンネル

